

2022年1月6日

博士学位審査 論文審査報告書（課程内）

大学名 早稲田大学
研究科名 大学院人間科学研究科
申請者氏名 陳 翰希
学位の種類 博士（人間科学）
論文題目（和文） 日中の曲水宴及び草餅に関する比較民俗学的研究
論文題目（英文） A Comparative Folklore Study on the Traditions of Qushui/ Kyokusui Gatherings and Kusamochi in China and Japan

公開審査会

実施年月日・時間 2021年12月17日・13:00-14:30

実施場所 早稲田大学 所沢キャンパス 100号館 第四会議室

論文審査委員

	所属・職位	氏名	学位（分野）	学位取得大学	専門分野
主査	早稲田大学・教授	谷川 章雄	博士（人間科学）	早稲田大学	考古学
副査	早稲田大学・教授	竹中 宏子	Ph. D.（社会人類学）	Universidad Complutense de Madrid	社会人類学 学
副査	早稲田大学・教授	原 知章	博士（文学）	早稲田大学	文化人類学
副査	早稲田大学・名誉教授	蔵持不三也	博士（人間科学）	早稲田大学	文化人類学

論文審査委員会は、陳 翰希氏による博士学位論文「日中の曲水宴及び草餅に関する比較民俗学的研究」について公開審査会を開催し、以下の結論を得たので報告する。

公開審査会では、まず申請者から博士学位論文について30分間の発表があった。

1 公開審査会における質疑応答の概要

申請者の発表に引き続き、以下の質疑応答があった。

- 1.1 曲水宴と道教の八仙との関係はあるかという質問に対しては、八仙の成立は明・清のため直接関係はないという説明があった。
- 1.2 巨端は日本で創造されたものかという質問に対しては、巨端と草餅の結びつきは日本で生まれたものであるという説明があった。
- 1.3 曲水宴の「政治性」とは何かという質問に対しては、政治史的なものではなく行事という文化と権力の関係をとらえているという説明があった。
- 1.4 撰闋家の曲水宴において古い時代の周公がとり上げられたのはなぜかという質問に対しては、周公は中国の歴史上の理想の聖人であったからであるという説明が

あった。

- 1.5 草餅のハハコグサ・ヨモギが厄払いの意味を持つのはなぜかという質問に対しては、ハハコグサは中国では漢代の薬草取りに遡る。五行説では緑は春を指している。日本のヨモギも薬草であったという説明があった。
- 1.6 この研究は食文化研究の中にどのように位置づけられるかという質問に対しては、中国という異文化起源の食文化が日本にどのように定着したかという問題であるという説明があった。
- 1.7 中国の曲水宴や草餅が日本に伝わって変化しなかったものがあるかという質問に対しては、曲水宴では持統朝以降の宮苑曲水宴は華林園系統の流れを汲み、摂関後期の三月三日詩会は王羲之系統の影響を強く受けていた。草餅については儀礼食として存続したが日本化が著しかったという説明があった。
- 1.8 以上のように、公開審査会において行われた質疑応答では、申請者は質問に対して適切に回答していたことが認められる。

2 公開審査会で出された修正要求の概要

- 2.1 博士学位論文に対して、以下の修正要求が出された。
 - 2.1.1 英文タイトルを以下のように修正すること。

A Comparative Folklore Study on the Traditions of Qushui/ Kyokusui Gatherings and Kusamochi in China and Japan
 - 2.1.2 論文の冒頭の「はじめに」において①研究動機や目的、②節句と何か、③現在各地で行われている曲水宴の行事との関係について加筆すること。
 - 2.1.3 論文の「終章」において「第4章、6 結論—日本曲水宴の時期区分について」で述べた内容をまとめて加筆すること。
- 2.2 修正要求の各項目について、本論文最終版では以下の通りの修正が施され、修正要求を満たしていると判断された。
 - 2.2.1 指摘されたとおりの英文タイトルを修正した。
 - 2.2.2 修正要求のとおり「はじめに」を加筆した。「はじめに」の概要は次のとおりである。①年中行事、節句に関する日本民俗学の視点、②節句とは何か、③現代の曲水宴と菱餅の位置づけ、④日中の比較民俗学的研究の目的と意義
 - 2.2.3 修正要求のとおり「終章、(4)「曲水」の日本化」の冒頭に日本曲水宴の時期区分について加筆した。その概要は次のとおりである。日本曲水宴は成立期(7世紀初～8世紀初め)、繁栄期(8世紀前半～9世紀初め)、変容期(9世紀末～10世紀中頃)、衰退期(11世紀初め～13世紀初め)という4つの時期に分けられ、各々の時期の特徴が述べられている。

3 本論文の評価

- 3.1 本論文の研究目的の明確性・妥当性：本論文は、中国起源の三月三日の行事である曲水宴と草餅の習俗が、日本にどのように定着、展開したかを明らかにする日中の比較民俗学的研究である。従来の日本の曲水宴及び草餅の研究は、中国にお

ける曲水宴及び草餅の習俗を詳しく検討せずに、日本の曲水宴及び草餅を論じてきた点で根本的な問題があった。本論文では、中国の曲水宴と草餅の習俗を復元し、それが日本に伝わり歴史的にどのように変容してきたかを論じている。こうしたことから、本論文の研究目的は明確であり、かつ妥当なものであると言える。

- 3.2 本論文の方法論（研究計画・分析方法等）の明確性・妥当性：本論文では、曲水宴に関しては文献史料、文学資料を中心に発掘された庭園の考古資料など、草餅に関しては文献史料とともにフィールドワークに基づく民俗資料を対象としている。また、叙述の方法は歴史的変遷を踏まえたものである。こうした本論文の方法論は、基本的に歴史民俗学の範疇に含まれる。また、日中の習俗の類似点と相違点から変容の過程を明らかにするという方法は、比較民俗学的研究において適切なものである。したがって、本論文の方法論は明確かつ妥当なものと判断される。
- 3.3 本論文の成果の明確性・妥当性：本論文では、次のような点が明らかにされた。①中国の西晋以降の皇家園林及び私家園林における曲水宴、唐の三月三日の曲江宴の変遷をたどった。②日本曲水宴は成立期（7世紀初～8世紀初め）、繁栄期（8世紀前半～9世紀初め）、変容期（9世紀末～10世紀中頃）、衰退期（11世紀初め～13世紀初め）に時期区分できる。③日本の曲水宴は古代から中世への時代的变化にとともにない、古代的・律令的な制限が失われ、日本的・文学的・美学的なものへと変容した。④中国の三月三日の草餅は6世紀以降唐まではハハコグサで作られた「龍舌料」であったが、宋以降は清明・寒食という行事の儀礼食に変わっていった。⑤日本の三月三日の草餅は中国から伝来して平安時代にはハハコグサで作られたが、室町時代にはヨモギに変わり、江戸時代には雛祭りの菱餅となった。草餅の民俗は地方における多様性を示している。こうした本論文の成果は、資料に立脚した明確な論旨に貫かれており、妥当なものと判断される。
- 3.4 本論文の独創性・新規性：本論文は、以下の点において独創的である。
 - 3.4.1 中国起源の三月三日の行事である曲水宴と草餅の習俗が、日本にどのように定着、展開したかを明らかにしたこと。
 - 3.4.2 日本の曲水宴について、文献史料、文学資料を中心に発掘された庭園の考古資料を用いて総合的に明らかにしたこと。
 - 3.4.3 中国及び日本の草餅について、文献史料とともにフィールドワークに基づく民俗資料を用いて総合的に明らかにしたこと。
- 3.5 本論文の学術的意義・社会的意義：本論文は以下の点において学術的・社会的意義がある。
 - 3.5.1 日中の比較民俗学的研究において、節句の研究という新しい地平を切り拓いたこと。
 - 3.5.2 日中両国の歴史・文化理解につながり、また今後の学術交流に寄与する研究であること。
- 3.6 本論文の人間科学に対する貢献：本論文は、以下の点において、人間科学に対する貢献がある。
 - 3.6.1 歴史学、文学、考古学、民俗学などの分野の横断的な研究であり、今後の人間科

学における歴史・文化研究の学際的方向の一つを提示したこと。

- 3.6.2 日本と中国の比較民俗学的研究であり、今後の人間科学における比較文化研究のあり方の一つを示したこと。
- 3.7 不適切な引用の有無について：本論文について類似度を確認したうえで精査したところ、不適切な引用はないと判断した。

4 学位論文申請要件を満たす業績（予備審査で認められた業績）および本論文の内容（一部を含む）が掲載された主な学術論文・業績は、以下のとおりである。

- ・ 陳 翰希 2018 「草餅と『三月三日』に関する研究—日中比較民俗学の視点から—」 『生活学論叢』 33号 pp. 1-14
- ・ 陳 翰希 2019 「曲水宴に関する研究—民俗学からみた古代中国の庭園曲水宴—」 『比較文化研究』 No. 136 pp. 145-160

5 結論

以上に鑑みて、申請者は、博士（人間科学）の学位を授与するに十分値するものと認める。

以上